

平成29年度 学校評価アンケート集計結果分析・考察

1 回収率

表1 平成29年度の全体の回収率

	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
生徒	98.3%	99.9%	99.4%	99.8%	99.6%
保護者	82.9%	87.0%	87.0%	91.4%	90.4%

表2 学年ごとの回収率

	全体集計			1年			2年			3年		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
生徒	100	82.5	98.3	100	97.4	99.1	100	97.4	99.4	100	82.5	96.5
保護者	100	40.0	82.9	100	57.5	91.2	100	50.0	83.4	97.4	40.0	74.0

本校は平成21年4月、仙台商業高等学校と仙台女子商業高等学校が統合、新しく仙台市立仙台商業高等学校として開校し、9年が経過しようとしている。上の表の平成25年度は全学年が8学級に揃った3年目の年度であり、今回の分析結果が新しい「仙台市立仙台商業高等学校」を考えていく上で基本的なものになるととらえて今年度の分析を進めていきたい。

なお、回答総数は、生徒932（男子368、女子564）、保護者786（男子生徒の保護者307、女子生徒の保護者479）である。

2 集計方法

設問内容については、6年前から生徒用のものに、「ボランティア活動への参加」に関する質問項目を追加している。なお、男女共学にとまなう変化についても読み取れるよう配慮した。

生徒用は設問1から18までの項目、保護者用は1から17までの項目に対してA・B・C・D・無回答の順に回答数とその回答率（%）を集計し、さらに100%積み上げ横棒形式のグラフに置き換えて集計表示した。

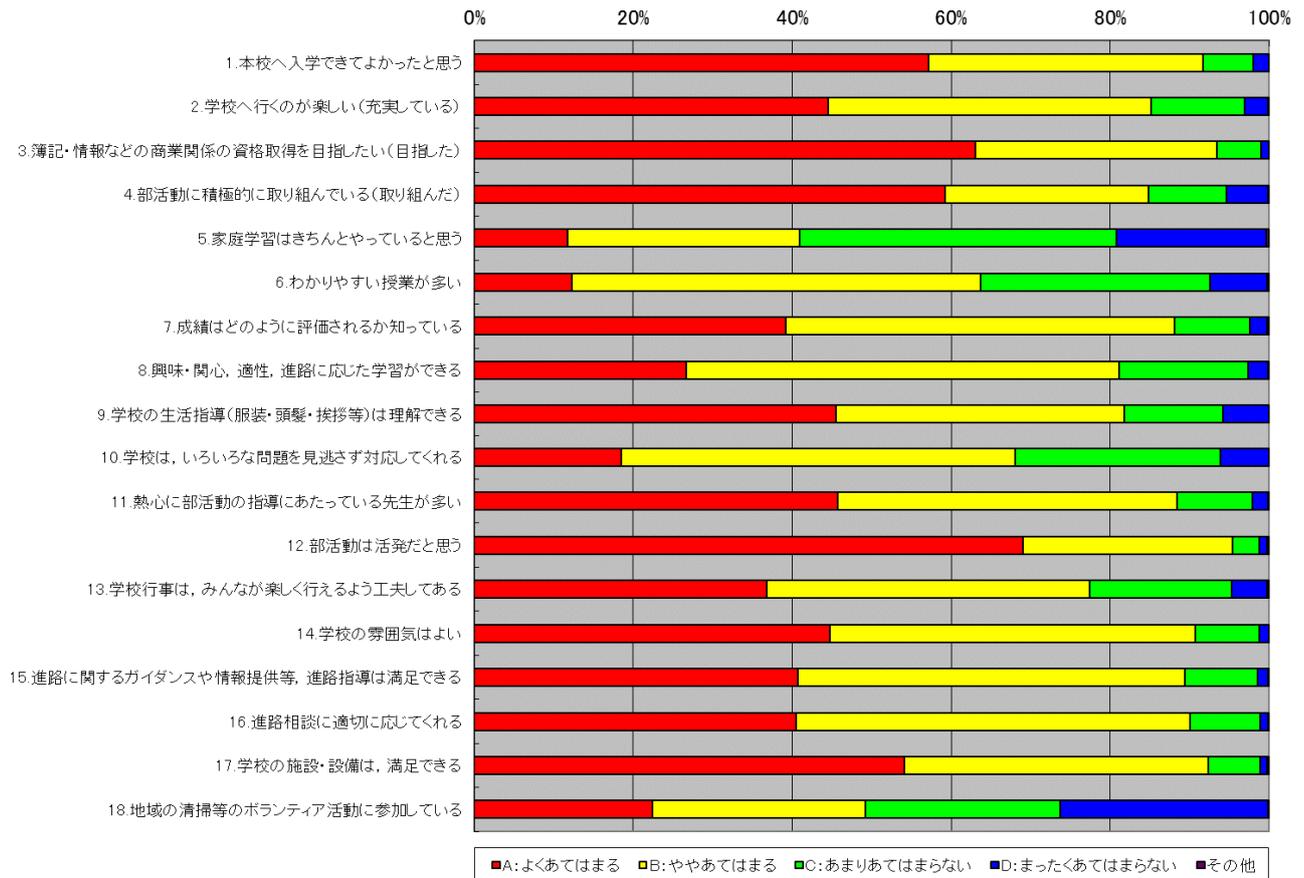
設問の最後には自由記述欄を設けて、設問項目に対する意見や項目以外に対する提言及び感想を記入してもらっている。

- (1) 横棒表示は生徒毎、保護者毎、教員毎に作成。
- (2) 回答内容と回答数は全体、学年別、学科別に作成。
- (3) 自由記述欄は、記述された文言を忠実に羅列集計。

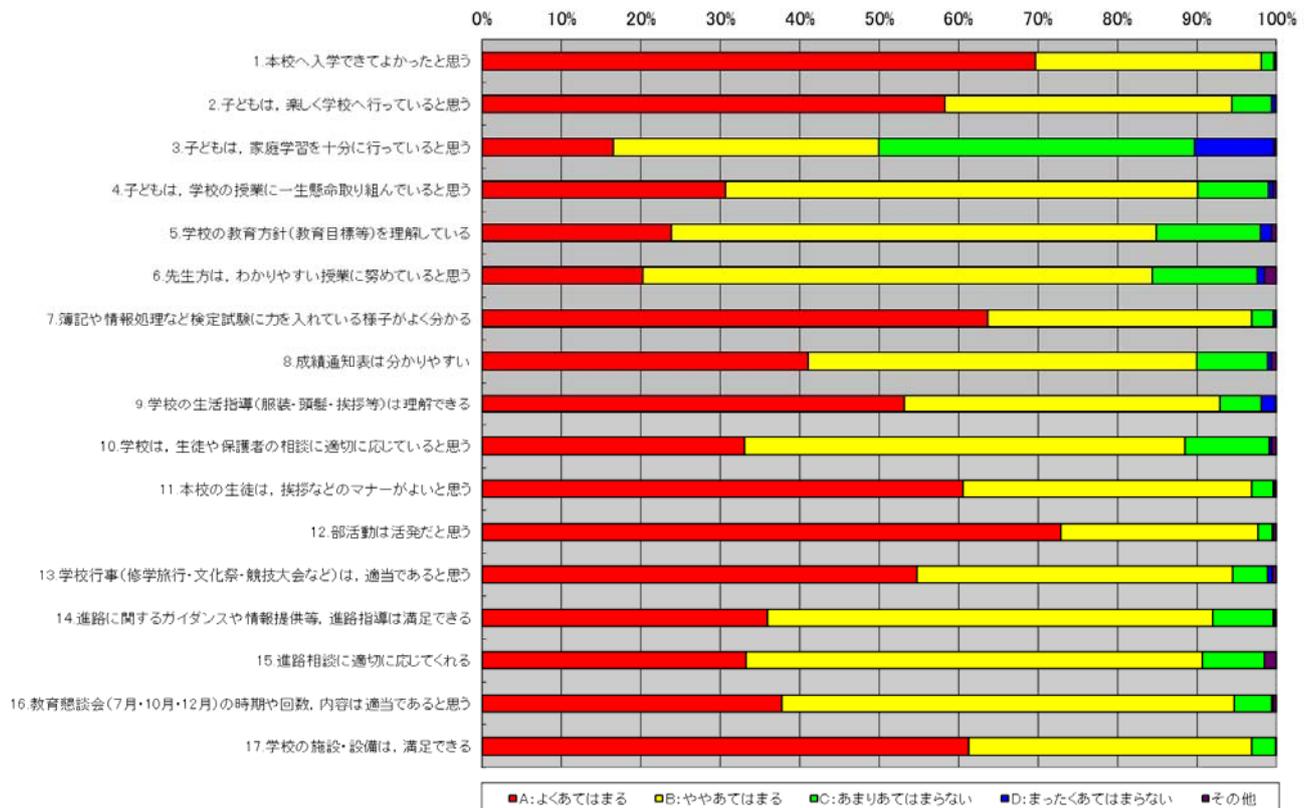
3 公表範囲

- (1) 仙台市教育委員会に概要を報告
- (2) 保護者に概要を配布
- (3) 学校評議委員会に概要を提示
- (4) 学校のホームページに概要を掲載・公表

平成29年度 学校評価アンケート（生徒対象）



平成29年度 学校評価アンケート（保護者対象）



【分析・考察】

1 学校に対する全体的な印象

2 ページの図を一昨年度・昨年度のものと比較すると、一昨年は生徒・保護者とも「よくあてはまる」「ややあてはまる」がともに若干減少したが、昨年度はともに増加した。今年度はまたともに若干減少したものの好結果だったと言える。以上のことから本校の新しい教育がますます定着してきていることを物語っている。

「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では91%を超え、1年生全体が92.4%、2年生が88.1%、3年生が94.4%でどの学年も好ましい評価となっている。ほとんどの生徒が満足感を感じながら登校してきている。このことから、本校の地道な教育活動が効果的に行われてきた結果といえよう。

保護者からは昨年度同様98%以上が入学できてよかったという回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」とする項目に関しても同様な傾向が見られ、生徒は3年生が最も高く(97.1%)、2年生(92.5%)、1年生(93.8%)となっているが、保護者は学年に関係なく92%を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示している。

2 目的意識

「資格取得を目指している(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で93.5%(昨年度より0.3ポイント減少)となった。内訳は、1年生が97.2%、2年生が91.0%、3年生が92.1%となった。学年間で多少差が出る結果となった。「学校全体に部活動が活発だと感じている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で84.8%(昨年度より11.8ポイントの急激な減少)となった。内訳は、1年生が89.9%、2年生が78.5%、3年生が85.9%となった。この項目でも学年間で差が出る結果となった。

保護者において、「資格取得を目指している(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で96.9%(昨年度より0.8ポイント上昇)となった。内訳は、1年生が97.6%、2年生が95.5%、3年生が97.5%となった。どの学年も、95%以上を超える結果となった。「学校全体に部活動が活発だと感じている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で97.7%(昨年度と変わらず)となった。内訳は、1年生が97.3%、2年生が97.0%、3年生が99.2%となった。この項目も95%以上を超える結果となった。上記の二項目に関しては、生徒・保護者とも、『商業関係の資格取得を目指しながら部活動にも積極的に取り組む』という学校の方針が、定着しているといえる。

また、その中で多くの生徒が商業高校としての特徴をよく理解し、学校生活に明確な目標を持っている。今後入学してくる生徒達に対しても良い見本となると考える。しかしながら、後述するように部活動への取り組みについては、毎年のことながら、学年による差や男女による差が大きくなっている現状がある。この問題点を十分に分析し、生徒にとって充実した学校生活を送れるよう努めていかなければならない。そのうえで本校の教育活動を継続し、さらに創意工夫を重ね実践していく必要がある。

3 学習意欲

「家庭学習はきちんとやっている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答し

た生徒の割合は、全体で 40.9%（昨年度から 2.2 ポイント上昇）となった。内訳は 1 年生が 46.2%，2 年生が 36.5%，3 年生が 39.8%（昨年度は 1 年生が 39.2%，2 年生が 36.1%，3 年生が 40.8%となった。保護者において「子どもは家庭学習を十分に行っている」の項目に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 49.9%（昨年度より 0.1 ポイント減少）となった。内訳は 1 年生が 49.8%，2 年が 42.3%，3 年生が 58.5%（昨年度は 1 年生が 49.2%，2 年が 49.8%，3 年生が 48.7%）となった。生徒において、1 年生の家庭学習が高くなっているが、2 年生・3 年生は、家庭学習の意識が低下している。その背景には、目的意識での「資格取得を目指している・目指した」との回答を密接につながり、どの学年においても資格取得を目指すには、家庭学習が不可欠であることを生徒自身が理解していると考える。しかし、学習習慣や基礎学力向上のためにも、日々の授業や朝自習を大切し、学習の積み重ねが資格取得、そして大学進学や就職といった進路実現につながることを強く指導していかなければならない。来年度は、さらに各教科で工夫を重ね、自己学習のできる生徒を育てていく必要があると考える。

「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 63.7%（昨年度より 0.7 ポイント減少）となった。1 年生 68.0%，2 年生 57.7%，3 年生 65.5%（昨年度は 1 年生 64.2%，2 年生 66.8%，3 年生 62.6%）となった。2 学年で 8.8 ポイント減少した。授業が理解できず、家庭学習を含めた自己学習の意欲が低下している要因となっているのではないかと推察する。商業科目の専門化が進み、生徒が理解しにくくなっている背景を教員側が理解し、工夫をしていく必要があると考える。また、どの教科においても、現職教育である「校内公開研究授業」の実施や、わかりやすい授業を目標とした教材研究等を通じ、今後も授業力向上を図り、生徒の学力向上に努めていかなければならないと考える。

保護者において、「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 84.4%（昨年度より 2.6 ポイント減少）となった。1 年生 85.6%，2 年生 80.5%，3 年生 87.1%（昨年度は 1 年生 86.4%，2 年生 85.5%，3 年生 89.0%）となった。

「成績はどのように評価されるか知っている」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 88.1%（昨年度より 1.7 ポイント上昇）となった。学年別では 1 年生 87.3%，2 年生 85.9%，3 年生 91.1%（昨年度は全体 86.4%，1 年生 80.1%，2 年生 93.0%，3 年生 86.2%）となり、どの学年も上昇した。観点別評価が定着し、日々の授業が評価につながる生徒が実感した結果と考える。今後、シラバスを活用し、さらなる学習の評価について、観点別評価の理解を図り、進めていかなければならない。

4 生活意識

生徒の回答に関して「学校の雰囲気はよい」は、昨年度から 1.4%下げたが、依然として 90%を超えるという高い割合を示している。また、「学校の生活指導は理解できる」は 80%超が理解をしている結果となったが、学年間の差異が大きくみられている。「学校はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」は、69.6%から今回は 67.8%と昨年度に引き続き評価が下がっている。このことから日ごろから、アンテナをしっかりと張った生徒観察および学級指導を実践する必要があるといえよう。今後はさらに生徒とのさらなるコミュニケーションや迅速なる対応を図りながら問題を解決していきたい。

「部活動は活発だと思う」については、昨年度の生徒・保護者全体 97.9%は下回ったが、96.6%（生徒 95.4%，保護者 97.8%）の高評価を得ており、部活動は資格取得活動を中心とし

た学習活動とともに本校の教育の両輪であるということを再認識できる。来年度統合して 10 年目の節目を迎え、男女生徒比が 6 : 4 で女子生徒が多い学校の中で、部活動の活発な状態を維持していくことを考えると、運動部への加入率が上昇してくることが望まれる。生徒に関して「ボランティア活動に参加している」は昨年度大幅に上昇した 53.8%から 4.5%に下がっている。また男女差で見ると（男子 58.7%・女子 43.0%）と女子の活動参加が少ない傾向がみられる。これは例年、年 2 回実施泉区一斉清掃の参加生徒がに運動部に多く、運動部への女子生徒の加入率が少ないことが男女差を生んでいるのではないかと思う。学校全体で取り組む機会を設定し、ボランティア活動への意識付けが必要である。

保護者の回答に関して「生徒の挨拶等のマナーが良い」は 96.9%と昨年とほぼ同値で高い割合を示しており、この点は本校の誇りでもあり、学校全体の良い雰囲気を作っている原点でもある。今後とも教職員が自ら挨拶を徹底するとともに委員会活動を活性化させ、現状に満足することなく生徒の意識を高めて行きたいものである。しかし、校外外に問わず一部の生徒の自分勝手な振る舞いにより、校外からのご指導や苦情を受けたりすることもあり、今後は校内だけでなく、校外においても高い評価が得られ、今以上に地域に愛される学校になる指導していきたい。保護者の回答の「生活指導は理解できる」が 92.8%の高い評価を得ており、今後とも地域に誇れる学校づくりを保護者の方のご支援とご協力をいただき実現できるようにしていきたい。

5 進路意識

進路関係項目は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合が、生徒と保護者とも全項目約 90%を超える高い結果を示している。この結果は全項目とも前年度の調査結果とほぼ同様の調査結果である。

今年度の調査結果については、3年生の進路達成状況、並びにこれまでの計画的な進路指導計画にもとづいた全教職員によるきめ細やかな進路指導の成果であると考えます。

昨年度より生徒と保護者の皆様が一緒に進路について考える機会になればと考え、保護者の皆様に進路ガイダンスへの参加案内をさせていただいたところ、平日開催にもかかわらず、1・2年生合わせて3割を超える保護者の方に参加いただいております。進路行事への参加も積極的である。

今後も生徒の高校卒業後の進路実現へ向けて、1年生の早い段階から進路意識の高揚を図るための指導に取り組んでいきたい。進路ガイダンスや進路情報の的確な提示、そして、生徒の興味、関心を踏まえ、生徒自身の職業適性を把握しながら自己理解を図り、それぞれの進路について真剣に考え、行動できるような進路指導をすすめていきたい。

6 男女差の大きい項目について

生徒の回答の中で男女間で最も大きな開きが見られた項目は、昨年度と同様に「ボランティア活動に参加している」で男子 59.1%、女子 42.9%であった。その原因としては昨年度も指摘した通り本校は地域の清掃活動等に運動部が積極的に参加しているため、運動部への加入率の差が反映されたものと思われる。ボランティア活動を推進することは、本校の重点目標の一つでもあることから、今後も女子生徒を中心にボランティア活動の意義を周知させて参加を促していかなければならないだろう。

保護者の回答の中では、これも昨年度同様「子どもは、家庭学習を十分に行っていると思う」であったが今年度は男子 38.8%、女子 56.3%と 17.5%と昨年度（10.9%）と比較して大幅に差が広がり特に男子の落ち込み（47.8%→38.8%）大きく、女子も前年度と比較して微減（58.9%

→56.3%)で前年度と比較すると大きな変化が見られた。特に1・2年生に関しては男子(1年35.8% 2年27.9%)女子(1年58.2% 2年51.9%)間に20%を超える格差が見られた。この項目については、男女間のみならず保護者・生徒のアンケート結果にも大きな差が見られ、何をもって家庭学習とみなすかについて大きな認識のずれが存在することが伺われる。この差異の理由については不明であるが、今後の指導上留意すべきだと思われる。

7 その他

「施設・設備は満足できる」は、生徒(92.3%)・保護者(96.9%)とも9割を超えている。本校の施設設備は、公立高校としては全国でも有数なものであり、それらが有効に活用されていることや環境整備にも力を入れていることから満足度が高いと思われる。現校舎も建設から来年度で20年目を迎えるが、今後も生徒が「楽しく」「安全に」学校生活を送れるように、保守・整備にあたっていきたい。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的な意見や要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、貴重な意見や要望等にも真摯に取り組み、よりよい学校を目指して検討・改善していきたい。